KODOMO no ASOBIBA

遊びは子どもの日常。文化は子どもの未来。

やつしろ子ども劇場

11月で創立55年目を迎えるやつしろ子ども劇場。『子どもにとって何が一番大事か』を追求し続け半世紀以上！芸術との出会い、仲間との出会いを通して、子どもたちの中にある遊び心や創造性を育てる環境を提供し、多くのOB・OGたちが育っています。今回の地震でも、全国の仲間の応援により、いち早くたくさんの子どもの遊び場を提供してくれました。







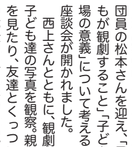
▲過司の事務所は、子どもも大人も誰でも気軽に訪ねていける場所。子育てに悩むお母さんたち、ウェルカムです！ 入口ではいつもフリーマーケット開催中♪

右より酒井陽子さん(代表)「もっと自由に出入りできる親子の居場所に」、丁畑幸美さん(事務局)「夢は駄菓子屋のおばあちゃん」、岡部裕紀さん(事務局長)「ここにきて子育てが変わりました」と語る、“頼れる子育てのプロ”の皆さんが子ども劇場を牽引します。

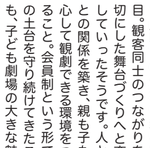
お問い合わせ **やつしろ子ども劇場**
毎週月・水・金 10:00～16:00
八代市通町7−18 通町ビルE-1
TEL.0965-35-3909 公式LINE▶

「やつしろ子ども劇場」って何をするところ？

魅力ある「鑑賞活動」と「仲間づくり」を通して子どもたちが夢を持ち、たくましく豊かな創造性を育む環境づくりを行っています。近年は、ゲーム・ネットに夢中になる子どもたちが圧倒的に多い時代ですが、生の舞台は映像文化とは全く違います。セリフや息づかいがダイレクトに飛んでくるのです。演劇や歌など生の声が届くことほど人の心を打つものはありません。そのリアルさが感情だけではなく、子どもの脳に届き、そこで得た感動、共感が子どもを豊かに育てていきます。“生(ライブ)”を体験することが子どもの力になる。そんな良質な体験の場を提供し続けているのがやつしろ子ども劇場なのです。



劇作家・演出家の西上寛樹さん(左)と人形劇団ひとみ座の松本美里さん(右)。観劇中の子どもたちの反応に着目し、話が進められました。



参加者も感じたことを言葉で共有し合い、観劇の魅力を再認識する時間となりました。

座談会に潜入！

大事なことは「客席」にある！ 演者から見た「子ども劇場での観劇」

演出家の西上さんと、人形劇団員の松本さんを迎え、「子どもが観劇すること」「子ども劇場の意義」について考えるミニ座談会が開かれました。

西上さんとともに、観劇中の子ども達の写真を観察。親の顔を見たり、友達とくっついたり、演者に話しかけたり。観劇を通して、舞台と客席、客席と客席の間で自然なコミュニケーションがまれていました。

また、松本さんは静かに観劇する一般の公演と、子ども達がのびのびと反応する子ども劇場での公演の違いに着目。観客同士のつながりを大切にした舞台づくりへと変化していったそうです。人と人との関係を築き、親も子も安心して観劇できる環境をつくること、会員制という形でその土台を守り続けてきたことも、子ども劇場の大きな魅力です。

子どもたちの自然な姿は、大人の笑顔も引き出してくれます。安心できる場所で観劇することの大切さに気づく、温かな座談会となりました。

Information

対象年齢

4歳～大学生まで年齢もバラバラ。小さな子たちを中・高校生のお姉さんたちが可愛がってお世話してくれます。「あのお姉ちゃんに会いたい」そんな“憧れ”から入り、子ども同士の「育ち合い」が生まれています。
★4歳～8歳…親子で一緒に楽しもう
★9歳以上 …仲間と一緒に楽しもう

年間事業

- 年4回、演劇、人形劇など鑑賞会の例会を行います。
- 夏休みは1週間、「子どもの家」として子どもだけで計画し、ごはんを作りおやつを食べたりして遊びます。
- 例会以外にも自主活動としてほぼ毎月イベントやワークショップなど“楽しい遊びの場”をつくっています。

会員費 いずれも4歳から・1人あたり

- 入会金:300円(入会月に1回のみ)
- 月会費:1,200円

★家族会費制度あり:1世帯3人以上で3,500円

子ども劇場 MEMO “9歳は節目”

子どもにとって、9歳までに保護者との愛情の交流を持つことが人格形成の礎になります！脳科学的に「愛着形成」と言いますが、欠落すると感情の抑制力が育たないことが実証されています。先日NHKで放送された武井壮さんの「ファミリーヒストリー」。武井さんは、まさに9歳までに保護者の愛情をたっぷりと浴びて育った成功例である、と言われています。

やつしろ子ども劇場のEVENT に参加しよう！

11/15 日 14:00～16:00(開場13:30)

うたのワークショップ［オペラシアターこんにゃく座］

オペラシアターこんにゃく座の歌役者さんがやってくる！こんにゃく体操、発声、こんにゃく座の歌、「森は生きている」の抜粋曲等を歌役者さんと一緒にたっぷり体験できます。

所 八代双葉保育園 費 無料
定員:25～30名 ※定員になり次第締切
要事前申し込み 応募締め切り:11/10(火)



11/22 日 13:00～15:30

おまつりごっこ 楽しみにしていたイベントが中止に。じゃあ、自分たちでやっちゃおう！ いろんな廃材を使って「みこし」などを作って通りを歩きましょう！

所 通町公民館 費 無料 ※要事前申し込み



12/19 土 14:00(開場13:45) 上演50分

肩掛け人形芝居ねずみのすもう

肩掛け人形芝居とは、室町時代からの人形芝居を復活させたもの。くすのき燕さんは素晴らしい演出家です。

所 未定 ※要事前申し込み
費 子ども(高校生まで)無料/大人ひとり1,500円



12/26 土 13:00～15:30

人形をつくってあそぼう［人形劇団ひとみ座］

所 通町公民館 費 無料 ※要事前申し込み

お問合せは右記フォームからお問い合わせください

地震を心配して 全国から素敵な仲間がやってきました！

令和8年熊本地震後、広場や体育館などの子どもの遊び場はすっかり無くなってしまいました。8月に入ると全国の仲間たちが“八代の子ども達が心配”という想いから、次々と子どもを楽しませようとやって来てくれました。本物の生の演技、生の声、楽しい遊びがいっぱいで、子どもたちの目はキラキラでしたよ！

◆「キナコちゃんとダンス!!」 人形芝居ひつじのカンパニー

役者・脚本・演出全てをこなす、構成員2名の劇団。佐賀を拠点に全国を巡演。『キナコちゃんとダンス!!』は初演の1999年以来、約600ステージ以上上演。

10月10日[土]
@宮嶋利治学術財団ホール





とっても楽しいライブ感溢れる人形劇でした。会場はまるで芝居小屋。演者の汗が飛び散る！子どもたちからも沢山の掛け声が飛び交い、おばあちゃん、おじいちゃんたちも笑いの渦！(笑いのツボは子どもとは違ったぞうです)

◆ただじゅんとあそぼう! ただじゅん企画

表現あそび、伝承あそび、手作りおもちゃなどを使って楽しませてくれます。岩手県と東京を2拠点とし、全国各地を駆け回っています。

8月31日[月]@通町ギャラリー8



始まる前から紙の作り物でワーク！法被を着てお祭り気分、和楽器、獅子舞で贅沢な公演に。はじめは恥ずかしそうだった子どもたちもどんどん参加して楽しみました。

◆人形劇あかずきんちゃん 人形劇団ののはな

劇団ブーク出身の2人。九州を拠点に全国で人形劇活動を行っています。児童福祉文化賞多数受賞している実力派！

9月3日[木]@鏡こどもすくすくスクール



9月4日[金]@文政学童・文政第2保育園



お話が始まったとたん、子ども達は思い思いに演者に語り掛けだし、のりのりに♪お話に入り込み自分でお話を創作する子も！

◆移動おもちゃ美術館 認定NPO法人芸術と遊び創造協会

芸術や遊びを暮らしに取り入れる活動を続け、各分野の専門家を養成しむし、おもちゃ美術館をはじめとする多世代交流の場づくりをしています。

9月22日[尖・祝]@文政保育園





遊ぶ力は生きる力！良質なおもちゃ300点と全国の遊びのスペシャリストが集い、地域の大人たち子どもたちが心から楽しみ、笑い合える場を提供する「移動型おもちゃ美術館」(木育キャラバン)が登場！台湾からの台湾ぜんぜんも振舞われました。

◆第3回子どもまつり 八代子どもの文化と生活を考える会

9月26日[土]@文政保育園



紙コップをたくさん持ち込みどんどん高く積んだり壁を作ったり。紙コップ工作が盛り上がりました。ボランティアで台湾の方達、建設業の方達も加わり、子ども達と遊んでくれて子どもたちも大喜び！かき氷、綿あめ、台湾からのお菓子も振舞われました。

SNSで繋がった全国からの支援 一過性で終わらない団体へ

生地店を本業とする中心メンバーの一人は、5人の子育てをする母親です。普段よりインスタグラムを活用し、全国の仲間と繋がっていました。そんな中、地震によって子どもたちは楽しみにしていた夏休みも全く遊ぶことが出来ない状況に。発災から4日目、2歳の娘に「何食べたい？」と聞くと「あそぶとこいきたい」との答えに衝撃を受け、「子どもの遊び場を作らなくては」と念発起し動き始めました。これまで培ったネットワークで一人、また一人と応援団が増えていき、その繋がりの中で寄付を募る活動を始めた方、ハンドメイド作品を届けてくれた方など「子どもの遊び場作り」への共感が瞬く間に全国へと拡がりました。応援団の熊本市内の方は、八代への物流が滞る中で物資の受取先になってくれたり、SNSを使って拡散を続けてくれたりと、たくさんの人の想いが数珠つなぎとなり「8246.あそび場」が生まれました。

現在、約10名のボランティアから成り立ち、看護師さん、保育士さん、学校の先生など異業種が集まり、一人ひとりに役割があると言います。さらにイベントとなると〝手伝いたい〟という方が自ずと参加してくれて、運営ボランティアは約20名になるそう。

「今後は子ども食堂もセットにしたイベントを予定しています。子ども達が思い切り遊べる日常に戻るには何年もかかります。一過性の支援で終わらせるのではなく、これからも継続して活動していきたい」と話してくれました。





全国から1,000点以上ものハンドメイド品が寄付として届きました。支援物資は、発災当初は子ども服やスタイなどの日用品が届き、徐々に現状に沿ったものへと変化していきました。

ママ達の繋がりから生まれた「子どもの遊び場」を創るボランティアチーム

8246.(やつしろ)あそび場

8246.あそび場は熊本地震をきっかけにスタート。その発端はSNS。イマドキの若いママたちの驚くべきネットワークが日本中を動かしています。まさに飛ぶ鳥落とす勢いの8246.あそび場の活動は、発災時だけの災害支援にとどまらず、今後も八代の復興とともに継続した活動へと生まれ変わろうとしています。

8246.あそび場で思いきり遊びました！

8月中旬より、子どものあそび場づくりは切れ目なく開催され毎回大盛況！ のんびり、ゆったり。大人も子どももリラックスできる場となり、たくさんの笑顔があふれました。







これまでのイベントには、**子ども服マルシェ、木のあそび場、おもしろかー、バルーンショー、アロママッサージ、ワークショップ、授乳・おむつ替えスペース、支援物資配布、絵本配布、おもちゃ配布、縁日、炊き出し、駄菓子号、整体師によるリラクゼーション、美容師によるヘアセット・カット、写真撮影、駄菓子コーナー、ありがとうコーナー**(いろんなありがとうを描いてもらいました)などが登場！ 支援学校を対象にしたイベントでは、**摂食嚥下障害向けのレトルト食品**など災害時に備えるべき専門性の高い食品も並びました。



▲ありがとうのメッセージ



▲摂食嚥下障害向けのレトルト食品

これからの8246.あそび場のイベントもお楽しみに！ EVENT

11/3 小祝 ❶「あそび場」15:00～16:30 ❷「光のあそび場」18:00～19:30

第7回8246.あそび場
所 八代市立第五中学校



12/13 日 12:00～20:00 (16:00～ランタンお渡し 18:00～ランタンリリースイベント開始) ※雨天時は19日(土)に延期

第8回 8246.あそび場「八代ランタンフェスティバル」
所 八代宮 費 ランタンチケット2,500円/観覧無料※
事前予約のみ・チケット販売はInstagramから
八代第一中吹奏楽部、声楽家・光山聖子さんの演奏も！



※混雑時は入場規制の可能性あり

1月中旬予定 第9回8246.あそび場

これからも毎月開催を目指し、地域に根差した活動として、みんなで育てていきます♪

イベント詳細はInstagramで発信中！お問合せはDMから

Wanted! 一緒に“8246.あそび場”を作っていきませんか？ボランティア募集中！

クラファンで応援！ **みんなでつくる.8246.あそび場**

8246.あそび場が継続して子ども達にあそび場作りができるように、クラウドファンディングを始めました。あなたも一緒にあそび場づくりに参加しませんか？ 詳細▶

そびっこ集まれ！ その他のイベント情報

八代運動公園フェスティバル ※雨天中止

日時 11.3(火・祝)10:00～15:00
会場 県営八代運動公園
内容 10種のスポーツ体験、ワークショップ、キッチンカー、バルーンアート等盛りだくさん！
問合 県営八代運動公園 0965-37-0006

詳細▼



熊本ヴィレックス 「親子で楽しむ！ホームゲーム無料ご招待」

日時 ❶11.14(土)14:00～ ❷11.15(日)13:00～
※その他の日程や入吉開催もあります
会場 東陽スポーツセンター
料金 無料ご招待 ※先着順・定員に達し次第終了
対象 県内在住の高校生以下のお子様とそのご家族
申込 右記QRからお申し込みください
問合 熊本ヴィレックス事務局 070-8556-2484

お申込み▼



熊本復興支援 FDスペシャルマッチ ×やつしろスポーツEXPO2026

日時 ❶11.21(土)12:00～ ❷11.22(日)10:00～
会場 ❶宇城会場 ❷県営八代運動公園
料金 無料 内容 元日本代表選手によるサッカー教室、交流ゲーム、スペシャルマッチなど
主催 NPO法人ユアアクション
問合 八代青年会議所 080-3757-7395(松嶋)



◀詳細

子育てコラム Kosodate column

「あそびは子どもにとって心の栄養(主食)」。

「あそびは子どもにとって心の栄養(主食)」。我が家のトイレに掛けてある、NPO法人Art.31さんの“わにぶたカレンダー”の言葉です。このカレンダーは子どもの権利条約」とりわけ休息や余暇、遊び、文化的・芸術的活動に参加する権利の大切さを謳った第31条について学べるもので、この10年ほどは毎年購入して、我が家の目につくところに掛けてあります。

その中では、子どもにとっての遊びは、なにかのご褒美ではなく、遊び＝日常”だとされています。そして、安全で自由な場所と時間の中で、仲間と遊んだり一人の時間を過ごしたりしながら、自分の好きなことや苦手なことを知り、いろいろな“自分”と出会うのだそうです。意訳。

さて、地震発生から少しだけ時間が経って、すべてが元に戻ることはないながらも、地震後の状況に合わせた生活が始まっているのではないでしょうか。そして気づかない間に溜まっていた身体と心の疲れが声を上げ始めた人も多いと思います。

今回、やつぶれさんが「子どもの遊び場」を特集すると聞いて、そう！今こそそれ!!と膝を叩きました。特に子ども、そして大人も、ずっとやるべきことに追われ、楽しむことに後ろめたさを感じて、遊びから遠ざかっている人が多いと感じています。かく言う私もまだまだ災害モードが今もあることだけで頭はずっといっぱいです。

そんな今だからこそ、遊びを、日常を取り戻した後のご褒美ではなく、日常を取り戻していく過程そのものとして自分の支えにしてほしい。私自身もそうありたいと思っています。

遊びには、決まった正解も“ゴール”もありません。自分の発想で自由に変化させていくことも、遊びの醍醐味です。私が震災後、最も自分を取り戻せたのはこのコラムを書くことでした。大人も子どもも“自分”を取り戻す時間として遊びを楽しめますように。



●かいな
熊本市出身。オットと社会人と高専生の自己主張の激しい2人の娘を持つやつしろぶれすで不定期の子育てコラムを執筆中。



「ワニブタカレンダー2027」(発行Art.31)は子どもの権利条約を身近に感じられる1冊。やつしろ子ども劇場でも1,000円で販売中です。詳細はp2お問合せ先へ。